

タイトル C1240581 菊地太陽

テーマ：「これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する。」

私は、大学に入学するまで図書館を利用することができほとんどなかった。それは、図書館の蔵書数が少なく、興味のある本が探しづらかったためである。私が通っていた高校では英語で書かれた小説が置かれておらず、学校で英語に関する勉強ができるものは教科書とパソコンだった。そのため、自ら図書館で学修するということは一度もなかった。

しかし、大学に入学してから図書館を利用する機会が増えた。大学の図書館には、探したい本や興味のある本を調べられるコンピューターが設置されていたり、私が読みたかった海外の小説が数百冊も所蔵されていたりと図書館を利用する目的が増えた。最近では、1週間に2回の間隔で利用しており、利用回数が増えたことで図書館の設備に対する要望を少しづつ抱くようになった。そこで、これまで以上に利用したくなるような図書館にするためには、長時間図書館で過ごしていても快適かつストレスのない空間を作ることが必要だと考え、2つの改善案を提案する。

1つ目は、空調設備の改善である。私は、3階で学修することが多いのだが、1時間でも学修すると熱気がこもって集中できなくなることが多い。そして、この空調に不満を抱く声が授業内のインタビュー中に複数含まれていた。このような意見は、勉強以外の不満を抱えたくないという潜在的ニーズが含まれていると考えた。このような身の回りの影響を減らすには、全フロアの冷暖房を強化することが必要だと考える。空調を

整えることによって、どのフロアでも快適に過ごすことができ、長時間利用する人が増えると考えたため空調設備の整備は優先すべき改善案である。

2つ目は、飲食可能な空間を設けることである。図書館の利用頻度が高い人にとって、館内で飲食できるということは大きな利点になると見える。それは、ほとんどの図書館が食事や水分補給をするためでも館内から一度離れなければならないため、勉強や読書している人にとって時間のかかる行動であり、面倒な行動である。そこでそのような無駄な移動時間を減らすためにも、飲食可能なスペースを設けることが必要だと考えた。また、飲食自販機を設置することで改善できるのではないだろうか。そのようなスペースを設けることによって、図書館だけで長時間過ごすことができるため、利用者数が増えることも考えられる。

これらの改善案を実施することができれば、これまで以上に利用したくなるような図書館になるとを考えた。